

とす、之によれば此の中の初めの一語を Radloff 氏が bir と読み、Müller 氏が bai[?] と読みたるは共に誤にして
br の二字に外ならず、第一語を Radloff 氏が käši と讀めるは、云々迄も無く誤にして、初めの字は如何にして
も k の字畫を具ふるものとは思はず、Müller 氏が β̄ri の二字と見たるは正しき讀方なり、されば此の兩字は
字體の上よりすれば br β̄ri と讀むを以て當れりとすべけれど、然も其の意義に至りては未だ解釋し得たる所なし、
Müller 氏は β̄ri を莫賀に當て、之を turgis の前に置きて莫賀突騎施可汗 bai(?) ならんかと疑ひたれど、莫賀な
る文字は突厥語の baya を寫せる例によりて考ふるも、β̄ri に當るとは思はず、錢面に於る文字全體の位置よ
りすれば、方孔の一邊に沿ひて其の一隅より正しく書かれたる β̄ri を以て初頭の語なりと見るべきが如くな
れば、此の語の位置に就ては恐らく Müller 氏の疑を存して提示せし所を以て當れりとすべし、されば要するに
貨幣の文面は β̄ri tūrgiš Ḫaṣan br として、br は突騎施の一部の名か、若しくは可汗の美稱なるべく、br は b(a)r,
b(u)r b(i)r, b(o)r, 中の一なる可汗の名に外ならざるべし。

此の如く此の貨幣は其の文字の読み方に於て未だ解決せられたるものありと雖、之が突騎施可汗の下に發行せら
れたるものなる」とは、固より疑の存するなし、兩唐書に據れば、突騎施は西突厥の別部にして、部長烏質勒といふ
もの、西突厥の滅後代りて其の地を領し、碎葉城即ち今の Tokmak 附近の地を中心として、伊犁の谷間地方を領し、
東は北突厥に、西はソグド地方に隣し、東南は唐の屬州なる西州即ち高昌及び、庭州、即ち濟木薩地方と接したるもの
のなり、烏質勒の勢の盛となりしは、唐書阿史那彌射の傳に「聖曆二年（冊府元龜卷九六四）に
以斛瑟羅（眞の子）爲左衛大將軍兼平西軍大總管、令撫鎮國人、（冊府元龜卷九六四）是時烏質勒兵張甚、解瑟等不敢歸、與其部人六七萬